

食道内視鏡外科講習会体験記

足利赤十字病院 外科 大山 隆史

(平成 11 年、慶應義塾大学卒)

今回初めて大規模なアニマルラボにおける講習会に参加させて頂き非常に多くのことを経験致しましたので報告します。テーマは食道疾患における代表的な内視鏡下手術である Nissen 手術、胸腔鏡下食道切除及び腹腔鏡補助下胃管作製(HALS)に加え、その再建及び吻合までと広範囲にわたり、講義に引き続き実技を行う形式で進められました。まず印象的であったこととしては片肺換気を含めほぼ通常の全身麻酔の環境が整備され、その臨場感は実際の手術現場そのものでした。多少なりともヒトと動物との解剖学的な差違を感じましたが、その空間の適度な緊張感が研修をより一層充実したものにしていると感じました。個人的には食道鏡視下手術の助手を各 10 件弱経験しておりましたが、実際の執刀はとてもそのイメージ通りには進まず、技術習得の難しさを痛感しました。特に基本手技の一つである体内結紮は実技の前に専用ボックスで練習可能ではありますが、安定した一連の動作として確立するには並ならぬトレーニングが必要であると感じました。また各種器機が揃い、制限なく選択、多用することが可能な点も本講習に特徴的なものでした。経験の少ない器機の試用や様々な状況下での器機選択という点でも非常に有益でした。内視鏡下手術の適応が拡大しつつある現在、技術向上さらには最新術式を臨床応用する過程において当講習会は非常に有用であり、必要不可欠なものであると感じました。今後も従来の開胸開腹手術を多く経験した上で再度参加させて頂きたいと思いました。

第 4 回食道内視鏡外科講習会の予定

食道内視鏡外科研究会の主催で平成 17 年 12 月 10 日(日)に静岡県富士宮市の Auto Suture – Training Center で開催予定です。大阪市立大学医学部消化器外科の大杉治司先生が Course Director を務められ、講師として奥芝俊一先生(斗南病院外科)、小澤壮治先生(慶應義塾大学医学部外科)、川原克信先生(大分大学医学部第二外科)、東野正幸先生(大阪市立総合医療センター消化器外科)が参加されます。

参加申し込み方法など詳細は、日本内視鏡外科学会雑誌 10 月号に掲載予定です。